

4月のことば ～人づくり

桜咲く。桜の美しさも様々。人もそれぞれの良さあり。

当園の目標を言葉にすると、「各人が持っている長所を引き出す為に、人的物的環境を整えて、自己肯定感を育む。そして、その能力を世の為人の為に発揮することを自らの喜びとできる人をつくる。」ことです。

2500年前に^{しゅう こちじん}修己治人の為に書かれた古典、“大学”のはじめに、「大学の道は^{めいとく}明德を明らかにするに在り。民に親しむに在り。至善^{しぜん}に止まるに在り。」と書かれていて、意味は、

世に良い影響を及ぼす^{だいにん}大人となる学問の道筋は、まず生まれながら与えられている明德（長所）を明らかにすることにある。その明德が発現されると、物事にも通じる心が生じ誰とでも親しくできるようになる。すると、世の為人の為に正しい判断ができて、常に道理に叶う行為ができるようになる。

・・・ということで、園目標と同じなのは驚くべきことです。世界の教育の流れは、“一斉一律指導型”から“生きる力を育む教育”へと進んでいます。

子どもも大人も、全ての人の感性を大切に育む^{その}園にいたしたく思います。

(次回からは又、「教育～学び⑤」の話しに戻ります。)

※尚、古典『大学』は 二宮金次郎が幼い頃、薪を背負いながら読んでいた本であり、後年 指導者としての指針となった。又、昭和の偉大なる経営者 松下幸之助は晩年質問を受け、読んだ事のない『大学』と同じ内容の事を述べた。天から大学を学んだ人であった。